

## 第2次あわら市総合振興計画（案） 各団体から提出された意見の概要と事務局の考え方

### ■会長

No.	意見の概要	事務局の考え方	原案修正の有
1	もう少しあわら市の目指す独自性や特徴を強く押し出すべきである。それには、第1次計画の成果や結果を十分に検討・吟味した上で、強化すべき施策や継続する施策などを踏まえながら計画案を作成すべきである。	第2次計画案は、第1次後期基本計画の各施策の目標の進捗又は達成の状況と現在の社会情勢を踏まえながら策定したものです。そのことは、基本構想部分において示させていただきました。ただ、基本計画については、今後5年間の市政全般について述べる必要があることから、広範な内容になることをご理解ください。	無
2	「あわら市のすがた」では、人口や世帯だけでなく、自然や環境などあわら市の全貌を取り扱うべきである。	総合振興計画は、市の概要紹介を目的とした市勢要覧とは異なり、市政の方針を示すものであることから、自然や環境に関する記載は省かせていただきました。	無
3	「将来の人口展望」を取り上げていることから明らかなように、人口減少が大きな課題であることは間違いないが、この問題をどれくらい念頭に置きながら計画案が策定されたのか、十分に伝わっていない。	人口減少対策は、基本構想で述べるとともに、基本計画でも今回からは施策として項目立てています。人口減少対策を主目的とした「まち・ひと・しごと創生総合戦略」との関連についても基本計画で述べているところです。	無
4	「ごみ減量化の推進」では、一般家庭よりも旅館から排出されるゴミが大きな課題であろう。この対策を強化することによりあわら市の独自性を強めることができると考える。	旅館などから排出されるごみの分別と資源化に対する支援は、一般家庭に関する記述と区別して記載しております。	無
5	「学校教育の充実」で、学校施設等が充実していると考えられる市民の割合を指標に採用しているが、児童や生徒の保護者などしか評価の対象にならないのではないか。	ご指摘のとおり、市民アンケートにおける学校教育に関する設問や子育て支援に関する設問は、児童や生徒の保護者でない市民には、馴染みが薄いと思われます。そのため、これらの設問では「わからない」という回答が、他の設問に比べて多くなっています。こうしたことも加味しながら施策の評価をしたいと考えています。	無
6	「青少年の健全育成」のスポーツ少年団児童登録率の推移表で、H25とH26の増減が大きいですが、その理由が示されていない。こうした原因を説明することで、今後の対応策につながって行くものと考えている。	登録率だと把握がしづらいため登録数に変更します。登録数は毎年のように減少しています。	有 (P64)

## 第2次あわら市総合振興計画（案） 各団体から提出された意見の概要と事務局の考え方

### ■坂井地区医師会

No.	意見の概要	事務局の考え方	原案修正の有
1	<p>第2次計画書案は、第1次後期基本計画の検証や反省の上に立案されておらず、指標・目標が希望的数値に終わっている。</p> <p>「保健医療の充実」の特定健診受診率が1次後期計画では、H26年度の目標が35.0%であったにもかかわらず、実際は27.9%に終わっている。このことに対する反省を踏まえた施策がなければH32年度の目標が40.0%に設定されても、絵に描いた餅に過ぎないと思う。</p>	<p>特定健診受診率が第1次後期基本計画の目標値に達しなかったのは、周知不足が大きく影響していると分析しています。そのため、健康づくりサポーターやモデル地区との連携を強化するとともに、各種媒体を活用した啓発に努めます。32年度の40%という目標値は、確かに高いハードルであると認識していますが、こうした施策を講じて取り組んでいくことについて、所管課と協議しながら設定したものです。</p>	無
2	<p>古いデータによる現状分析だけでは、10年先の2025年を見据えた対策は出てこない。</p> <p>団塊の世代が後期高齢者になる2025年には、3人に一人が65歳以上の高齢者になり、5人に一人が75歳以上の後期高齢者になる上、認知症患者も現在の約1.5倍になると予測されている。</p> <p>その対策として検討されているのが地域包括支援センターの充実強化による地域包括ケアシステムの確立である。また、認知症対策も重要である。</p> <p>そのために、「地域包括支援センターの充実」と「認知症増加への対策」を是非盛り込んでほしい。</p>	<p>「高齢者福祉の充実」の現状と課題に認知症対策を加えました。また、事務事業として「認知症対策の推進」を追加するとともに、「地域包括ケア」も一部修正しました。</p>	有 (P47-48)

## 第2次あわらし総合振興計画（案） 各団体から提出された意見の概要と事務局の考え方

### ■あわらし市老人クラブ連合会

No.	意見の概要	事務局の考え方	原案修正の有
1	高齢化が進む中、老人センター機能の縮小が予定される一方で、健康づくりのための施設も十分とはいえない。高齢者の生きがいがづくりや健康づくりのための支援と施設等の提供について記載願いたい。	老人センター等の施設は、高齢者のニーズ等も見極めながら適切に管理します。また、高齢者の生きがいがづくり活動については引き続き支援を行います。	無
2	「道路交通網の整備」で、国道305号の拡幅についても記載願いたい。	事務事業「国道の整備促進」を修正しました。	有 (P76)
3	「市民主役のまちづくり」の「まちづくり活動への支援」に、各区における空き家対策への支援を加えてはどうか。	空き家の管理・利活用策については「安心なまちづくりの推進」「商業の振興」及び「人口減少対策」における事務事業で記載しています。各区における活動は、これらに含まれるものと考えています。	無

## 第2次あわら市総合振興計画（案） 各団体から提出された意見の概要と事務局の考え方

### ■あわら市PTA連合会

No.	意見の概要	事務局の考え方	原案修正の有
1	<p>小学校の統廃合により子どもたちの精神的負担が大きくなることが考えられる。環境の変化による児童・保護者の精神的負担や経済的負担が最小限になるよう支援をお願いしたい。</p>	<p>休校が予定される3校の児童や保護者に対しては、統合前後における精神的及び経済的負担の緩和のための支援に努めます。</p>	無
2	<p>少子化による児童・生徒の減少は、スポーツ少年団や部活動の運営にも支障をきたしている。手厚い子育て支援策を講じて、少子化に歯止めをかけられないのが現状である。</p> <p>こうした効果的な施策を一層PRしながら若者に住んでもらえるようにしなければならない。それとともに、あわら市に「住みたい」「働きたい」と思えるような施策を盛り込んでほしい。</p>	<p>「若い世代が住み、生き、育てていくまち」は、第2次総合振興計画においても市の重要政策として掲げています。</p> <p>ご指摘のように、本市の手厚い子育て支援策のPRに努めながら、若者から住みたい、働きたいと思ってもらえる施策の展開に努めます。</p>	無
3	<p>計画案における施策の方針や指標・目標が抽象的で、具体性に欠けている。PDCAを踏まえた計画とすべきである。目標値についても、アンケートなどのパーセントではなく具体的な数値とすべきである。</p>	<p>総合振興計画は、市政全般の方針を定める最上位計画であり、具体的な手段や手続は、各実施機関の下位計画等で定めることとなります。また、PDCAサイクルについては、別に実施する行政評価、行政改革大綱実施計画等と連携しながら確立します。</p> <p>なお、いくつかの目標値に採用している市民アンケートは、毎年同じ設問で実施しているものであり、その推移を検証することで、市政に対する客観的評価に繋がるものと考えています。</p>	無
4	<p>市政においても、施策の中に顧客満足度（CS）という考え方を取り込みながら、顧客＝市民が満足する施策をお願いしたい。</p>	<p>市民満足度という考え方は、幸福という視点から基本理念や基本構想に盛り込んでいます。また、総合振興計画とリンクさせながら実施する行政評価においても、同様の視点は取り入れています。</p>	無

## 第2次あわらし総合振興計画（案） 各団体から提出された意見の概要と事務局の考え方

### ■あわらし市教育委員会

No.	意見の概要	事務局の考え方	原案修正の有
1	「日本一幸福な福井県で・・・」は、日本一と判定した研究機関等を示す必要があるのではないか。	法政大学大学院が、生活、労働、安全、医療などを指数化して、2011年に発表したランキングによります。福井県においてもこれらをもとに幸福度日本一を標榜しており、本計画の表記もこれによっています。こうした評価はある程度一般化していると考えられるため、研究機関名は注釈として記載していません。	無
2	新幹線に期待されるのは大量輸送ではなく、交流人口の増加と考える。また、この地域が物流で発展してきたとはいえないのではないか。	北陸新幹線の輸送能力は年間1,640万席で、新幹線開業前の羽田小松航空便の年間300万席に対し5倍強となっています。ご指摘のように、輸送能力の向上で期待されるのが交流人口の増加と考えます。また、物流で発展した等の記述は、全体の文脈からご理解ください。	無
3	並行在来線の運営に関する記載が、利便性の低下を前提とした表現になっている。市民が新幹線の開業をメリットとして捉えられる表現にできないか。	並行在来線の運営が第3セクターに移行することで求められるのは、便数や運賃体系の維持とさらなる改善です。こうした課題はあらかじめ示しておくべきと考えます。	無
4	あわらし市の暮らしやすさをみんなが認めるならその根拠を示す必要がある。	会議でも説明したように、東洋経済新報社が全国800あまりの市を対象に行った住みよさランキングで、あわらし市が78位にランク付けされたことや、5歳児のこども園料無料化などの手厚い子育て支援サービスによるものです。計画書全体を読み解いていただければご理解いただけるものとして根拠は示していません。	無
5	「PFI」「ノーマライゼーション」は注釈が必要である。	それぞれの語句に注釈を追加しました。	有 (P31、P50)
6	生活保護受給者数と給付額の推移のグラフで、給付額が表示されていない。	受給者数のみのグラフに変更しました。	有 (P57)
7	「学校教育の充実」で、自ら学ぶ旨の表現を追加してはどうか。	「自ら考え、判断し、問題を解決する能力を身に付け」ることが、「学び」であると考えます。	無

8	「生涯学習の推進」で、公民館講座の内容に子ども向けのものを追加してはどうか。	「幅広い年齢を対象としたもの」を追加しました。	有 (P66)
9	金津創作の森の入場者数の推移のグラフで、H25年が突出している理由を示したほうがよい。	平成25年に開催した蜷川実花展に過去最高の入場者があったためですが、理由の明示は控えています。	無
10	「人口減少対策」で、市の重要政策が「若い世代が生み、住み、育てたくなるまち」になっている。読点の表記も検討すべき。	表記を修正しました。「若い世代が」後の読点については、近年は付けていないため、省略します。	有 (P108)

第2次あわら市総合振興計画（案）  
各団体から提出された意見の概要と事務局の考え方

■坂井森林組合

No.	意見の概要	事務局の考え方	原案修正の有
1	「林業の振興」で、施策の方針に「地域木材の活用」を追加願いたい。	施策の方針の「間伐の促進と森林環境の保全」を一部修正しました。	有 (P94)